

妥当性・信頼性・実際性のある評価(2)

— 評価観点別問題による定期テストの実施 —

筑波大学附属中学校

肥沼 則明

1 技能と知識・教養の評価

筆者は、英語は技能教科であると考えている。したがって、本誌2002年9月号では、妥当性・信頼性・実際性のある評価を行うために、「技能別に特化した評価」について議論し、その具体的な方法のいくつかを提案した。しかし、一方で英語も知識・教養教科の1つであるということをおぼろげに忘れては的確な評価はできないということもわかっている。そして、その視点で生徒の力を的確に測定する一番の方法は定期テストであると考えている。そこで、今回は妥当性・信頼性・実際性のある定期テストのあり方について議論する。

2 定期テストの実態

多くの教師は自分が作成した定期テストを他の教師に見せたくないという。その最大の理由は、「いいかげんに作っているから」だそうである。例えば、過去に作った問題をそのまま流用したり、問題集にある問題を切り貼りで使ったり、入試問題などを借用したりということである。それでもまだ自分で作ってあればましである。中には定期テストを丸ごと既成のもので済ませてしまう教師もいる。

このような実態は、教師が忙しすぎて定期テストまで時間と労力をかけて作ってられないという実情もあるであろう。しかし、その一方で、定期テストの基本的な作成方法や、さらにはテストの基本的なルールを知らないがために、このような実態になっている

ということもあるように思われる。

3 定期テストのあるべき姿

では、よい定期テストとはどのようなものだろうか。筆者は、次の3点を満たしているものがそうであると考えている。

(1) 指導したことをきちんと評価できる

定期テストは、指導と評価の一体化という観点から、各教師が授業その他で指導した内容を、生徒がどの程度理解しているかを確認できるようなものにすべきである。したがって、各教師が自分の指導した内容に合った問題を自作するのが基本である。「問題先ありき」では適切な評価材料にはならない。もちろん、リスニングや長文読解のピースとして何らかの既成のものを使うことはあるであろうが、その場合でも、各問いは各教師が指導した内容に照らし合わせて作るべきである。

(2) 評価したいことをきちんと評価できる

テストで最も重要なことの1つは、生徒のどのような力を評価しようとしているかが明確な問いを作ることである。逆に言えば、いったい何を評価しようとしているのかわからないような問いは作らないようにするのが基本である。

そのためには、できるだけ各問いが単一の観点から生徒の力を測定するようなもの（評価観点別問題）にするのがよい。もちろん、実際にはほとんどの問いが複数の力を総合しなければ解けないわけであるが、主に必要とする力は何なのかということは、作成者側と

して明確に押さえておく必要がある。

また、ある程度の数の問いを集めた大問についても同様のことがいえる。問題集の「発展問題」というものによく見られるような、語彙・文法・内容把握などが混在するような大問は、その部分が全体として生徒のどのような力を測っているのかわからないので、極力避けた方がよい。

(3) 評価したことを指導に生かせる

テストは生徒の力を評価するために行うわけであるが、できればその後の指導にも生かせるものにしたい。教師・生徒の両者にとって、テストがさらなる指導・学習目標を設定するための材料となるようにするのである。

例えば、(2)で議論したように評価観点別問題による大問を設定したとしたら、採点は大問ごとに行い、その点数をパソコンに入力するようにする。解答用紙も評価観点別大問の点数が示されるようにしておけば、生徒は自分で観点ごとの成績を確認することができる。

そして、事後指導としてテスト結果を自己分析させるようにすると、定期テストを単なる評定材料から形成的評価のための教材として利用できるようになる。そのためには、まず評価観点別に集計した結果を生徒にフィードバックする。生徒はそれを見て、絶対的な達成度とその集団における相対的位置を知ることができるのである。そのデータと自分の解答を検討させて、その後の学習課題を考えさせると、定期テストを指導に生かせるというわけである。

4 評価観点別問題定期テストの実際

筑波大学附属中学校には4人の英語教師がいるが、これまで議論してきたような方法の定期テスト(年4回)を3学年共通で行っている。ここではその手順と方法を紹介する。

(1) 評価観点の検討

問題作成で最初に取り組むことは、そのテ

ストの評価観点(同時に大問)を決定することである。これによって、そのテストで生徒のどのような力を測定したいかを決定する。

筆者は、平成14年度は2年生の担当であるが、もう1人の担当者と協議の結果、前期期末考査(10月実施)の評価観点は以下の8項目とした。なお、テストの実物は資料1を参照いただきたい。

【放送を聞いて答える問題】(計40点)

- ①基礎英語(10)……聴取を奨励し、授業でも時々扱うラジオ番組の内容理解に関するもの(多肢選択)
- ②内容理解(10)……初出のピースの内容理解に関するもの(多肢選択, 空所補充, 日本語説明)
- ③表現理解(10)……場面に合った表現や問答の正当性を問うもの(多肢選択, 正誤判断)
- ④教科書本文再生(10)……英文を聞いて正しく書けるかを問うもの(最後に聞いた文や次に来るべき文を書く)

【英語を読んで答える問題】(計10点)

- ⑤内容理解(10)……副読本として夏季休業中に読ませたピースの内容理解に関するもの(多肢選択, 空所補充, 日本語説明)

【英語を書いて答える問題】(計50点)

- ⑥語彙(20)……単語と連語の知識を問うもの(空所補充)
- ⑦文法理解(10)……語法や構文の理解に関するもの(語形変化, 語順整序)
- ⑧表現力(20)……伝えたいことを書いて表現するもの(場面作文, 条件作文)

(2) 具体的問題の作成

評価観点到合わせて問題を教科書や授業内容の中から探す。すでに目的がはっきりしているもので、それほど難しい作業ではない。大問の合計点と指導内容を秤にかけると、出題すべき内容はほぼ決まってしまう。ただし、初出のピースを探すには、日頃から適当な材料をストックしておく必要がある。

(3) 放送問題の録音

放送問題は、既成のピース以外は2人の担当者にALTを加えてすべてオリジナル録音で作っている。録音機器はMDプレーヤーとデジタル・マイクの組み合わせが現時点では一番よいようである。ただ、筆者の場合は最終的なマスターはカセット・テープにするようにしている。多様なソースをまとめるには、やはり一番使い勝手がよいからである。

(4) 採点

答えが何通りにも出てくる可能性のある問題は、2人の担当者がそれぞれ最初に採点をして、採点基準の調整を行っている。基本的には問題作成時に抱いていた問題の意図に合うように採点するが、実際の生徒の答えを見ながら採点基準が動くことも少なくない。

(5) 大問ごとの得点集計

③(3)で述べたように、個人の合計点の集計はパソコンへの大問点の入力によって行うようにしている。こうすると、合計点以外に大問ごとの平均点や得点分布も簡単にらせるからである。一見すると、この作業で得点集計の労力が何倍にもなりそうな気がするが、実際には電卓をたたく代わりにキーボードをたたけばよいだけであり、逆に大問ごとのデータを集積できるというメリットがある。

(6) 評価観点別結果グラフの作成

大問ごとのねらい、満点、平均点を示した表とともに、平均点がレーダーチャートになったグラフ(資料2)を作る。評価観点別問題の大問ごとの平均達成率の情報を生徒にフィードバックするためである。生徒はそこに自分の大問ごとの自己得点を記入し、達成率を計算した上でレーダーチャートに自分のデータを書き込む。また、観点別評価に生かすことも念頭に置いた度数分布表(資料3)も作る。

(7) 「テストノート」の課題

生徒は、「テストノート」という独立したノートに、テスト用紙や解答用紙などを貼り付け、テスト問題をもう一度行った上で、本

テストにおける誤答分析(なぜ間違えてしまったのか)を行う。次に、各問いの正答分析(正答がなぜそれであるのか)を行う。最後に自分の日頃の学習、テスト勉強への取り組み、今後の学習の力点などを書かせ、自分の学習課題は何かを自らの力で明らかにさせる。

5 「自立した生徒」と定期テスト

さて、このような定期テスト実施の一連の流れは、授業時数が減少してますます重要になってきた「自立した生徒」を育てるのに大きく貢献していると本校では考えている。特に、テストノートにおける誤答・正答分析は、生徒にかなりの負担をかけているにもかかわらず、多くの生徒が「この分析のおかげで初めて深く納得できた」というようなことを異口同音に言っていることから、定期テストを指導に生かす方法の1つとして大変重要な課題であると位置づけている。

一方、生徒にきちんと自分の力を分析させるためには、テスト自体がそれに応えられるものでなくてはならない。評価観点別問題は、今や本校の英語科定期テストにおいては欠かせないものとなっており、年を追うごとにバリエーションも豊富になってきた。もちろん、評価観点や各問いの切れ味にも磨きをかけるよう努力している。

6 定期テスト作りに関する研修の必要性

定期テストを含めたテスト作りに対する現場教師の認識はまだ十分とはいえない。テスト作りはまさに「ジ・アンタッチャブル」状態である。この部分にメスを入れないかぎり、いくら評価方法について議論しても、妥当性・信頼性・実際性のある評価はできない。関係諸機関による研修会も重要であるが、教師個人の自己研修も必要である。なお、テストニングの基本は、若林俊輔・根岸雅史著『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』(大修館)で勉強することができる。

資料1 定期テストの問題と解答用紙 (「第2学年前期期末考査」の一部)

【英語を書いて答える問題】

10 読衆の問題(1) (単語) 1×10=10
次の英文の()に、[] に示した日本語の意味に合う語を入れなさい。

- Please () me about your country. [〜に話す]
- They lived a () life. [質素な]
- He () a beautiful fish in the river. [〜をつかまえた]
- I liked the fire () on the mountain. [祭り]
- Communication is () for us. [重要な、大切な]
- The man () it to a store. [持っていった]
- Everyone in my class is very () to me. [親切な]
- It's not so () for me. [難しい]
- We have three (). [子供]
- Do you ()? [わかる、理解する]

11 読衆の問題(2) (連語・重要表現) 2×5=10
次の英文の()に、[] に示した日本語の意味に合う語を入れなさい。

- I was () () () yesterday. [病気でおて]
- Did you () () Becky? [〜から便りがある]
- The lizard () (). [弱くなった]
- () ()! [おないじに]
- Don't eat () (). [多すぎる]

12 文法理解の問題(1) (動詞の形と助動詞) 1×4=4
日本語の文と英語の文がほぼ同じ意味を伝えられるよう、() に適切な語句を入れて英文を完成させなさい。ただし、必ずしも1語とはかぎらずです。

- 私が夕食後にあなたの手伝いをしてあげます。
I () help you after dinner.
- ホストファミリーのみんなが英語を話すので、私も英語を話さなくては行けない。
Everyone in the host family speaks English. So I () speak it, too.
- 夕食に寿司を食べたいと思っています。
I want () eat sushi for dinner.
- 放課後はこの教室を使ってもいいです。
You () use this classroom after school.

平成14年度 第2学年 英語科前期期末考査 H14.10.2 岡田・肥田

【放送を聞いて答える問題】

- ① ウ ② イ ③ ウ ④ ア ⑤ ウ
- ① ウ ② イ ③ ア ④ ウ ⑤ ウ
- ① シンガポール ② (徳)のおじ ③ 民族 ④ 4 ⑤ 正月
- ① 火事 ② 夜ごちの(外)の(建物)の外に出る ③ 3 ④ エレベーターを使う
- ① ア ② ウ ③ ア ④ ウ ⑤ イ
- ① X ② O ③ O ④ X ⑤ O
- ① We use English to study most subjects.
② One day the man remembered the priest.
③ You can find interesting things around your home.
④ But I don't know how.
⑤ It was a bright green lizard.

【英語を讀んで答える問題】

- (1) ① we ② I (2) エアウェイオ (3) friend
(4) rain (5) stone (6) quickly (7) オウイエア
(8) オウイエア (9) Drop some

【英語を書いて答える問題】

- ① tell ② simple ③ caught ④ festival ⑤ important
⑥ took ⑦ kind ⑧ difficult ⑨ children ⑩ understand
- ① sick in bed ② hear from
③ turned hard ④ Take care
⑤ too much

資料2 評価観点別結果グラフ

平成14年度第2学年 英語科前期期末考査
観点別問題達成度グラフ

1 自分の得点を下の表に記録し、それぞれの達成度(=得点÷満点)を計算しよう。

項目	放送を聞いて答える問題(40)					英語を書いて答える問題(50)					合計	
	英語	理解	表現	読書本文再生	語い	文法	理解	表現	語い	理解		
問題番号	1,2	3,4	5,6	7,8	9	10,11	12,13	14,15				
満点	10	10	10	10	10	20	10	20	10	20	100	
平均点	8.2	5.5	7.5	5.7	6.7	15.8	7.5	13.9	7.1	71.1		
得点												
達成度												

2 上の表の達成度を下のレーダー・チャートに記録し、内側を色鉛筆等で塗ってみよう。

3 テスト・ノートを作成しよう。

- テスト問題、解答用紙(模範解答含む)、達成度グラフを貼る。
- 問題をもう一度やり(答えをノートに書く)、答え合わせをする。
- 正解と誤答を音読しそれぞれ自己分析する。*これがもっとも大切! これがないと意味がない。
- 自己分析...全問の正誤と誤答の原因を記入する。誤答分析...なぜまちがえたのか。
- これまでの英語学習と定期考査へ向けての学習を振り返り、反省と感想を書く。また、今後の英語学習への決意や抱負を書く。

※ノート提出日: 10月 日 ()

資料3 総得点分布表 (観点別結果表含む)

No.25

前期期末考査得点度数分布表
-中間考査と比較して全体及び個人の傾向を知る-

Task 1: 中間考査(上段)、期末考査(下段)のグラフの自分の得点のところに印をつけよう。

Task 2: 上のグラフからどのようなことがわかるか考えてみよう。

<全体について>

<自分個人について>

Task 3: 観点別問題達成度グラフの結果を次の表でまとめなおしてみよう。

観点	問題番号	満点	平均得点	自己得点	自己達成率
理解	1~9	50	33.7	67.4	
表現	7, 8, 14, 15	30	19.6	65.3	
知識	10~13	30	23.4	78.0	

※7, 8は「理解・表現」とする。

※考査はテストノートに行えこと。

※保護者のサイン

※「確かに見ました」とお書きください。